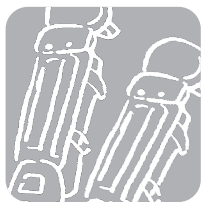
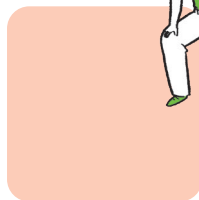
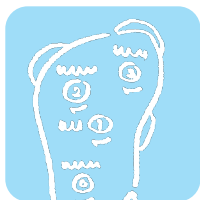
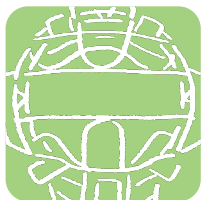
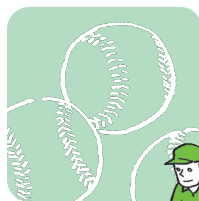
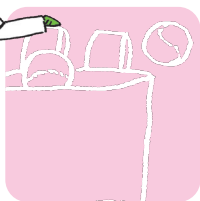
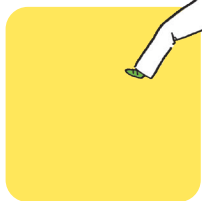
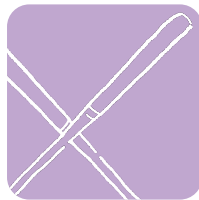
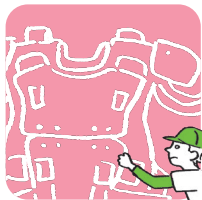


# 審判員の基礎のキソ



野球をやったことがなくても、審判をやったことがなくても、野球の審判をやってみてほしい。  
 そのためには、1人でも多くの人々に、審判の楽しさや野球の奥深さを知ってほしい。  
 そんな願いから、このリーフレットをみなさまに贈ります。

POINT  
1



審判員にとって大事な  
ことってなんだろう？

POINT  
2



審判やったことないけど、  
できるか不安だな

POINT  
3



そもそもどれが基本で  
何から学べば  
いいんだろう



大丈夫!!これを読んだすぐ後に審判をすることができる!!



# 審判道具

審判員は大きく分けて塁審と球審の2種類あります。

## 塁審:

主に打球を「捕った・落とした」、ランナーの「アウト・セーフ」の判定をするポジション。

## 球審:

主にピッチャーの投げたボールに対して「ストライクorボール」を判定するポジション。

ピッチャーの投球やバッターの打球が身体に当たったりする可能性があるため、塁審よりも多くの道具を身につけます。球審の際に必要な七つ道具を簡単に紹介していきます。

## マスク

投球や打球が顔に直接当たることを防ぐための道具。

ピッチャーが投げてからバッターが打つまで⇒マスクを着用

バッターが打ってから次の投球まで⇒左手にマスクを持つ。

基本的にマスクを左手以外で持つことはない。



## プロテクター

投球や打球が胸や肩などに直接当たることを防ぐための道具。キャッチャーとは違い、ユニフォームの中に装着する。



## レガース

投球や打球が膝から足首までの部分に直接当たることを防ぐための道具。プロテクター同様に、ユニフォームの中に装着する。



## ファウルカップ

投球や打球が股間に直接当たることを防ぐための道具。

カップがあるのとないのとでは当たった時の痛みは雲泥の差。そのためファウルカップを忘れてしまった場合は、当たってしまった時の恐怖が頭の中をうろついているとかうろついていないとか…。





# 基本姿勢

審判員の判定を周りに理解してもらうためには声と共にジェスチャーが必要不可欠。  
主なジェスチャーは以下の5つ。

## アウト・ストライク・スイング

- (1) 右腕を伸ばした状態で肩の高さまで上げる。
- (2) 右肘を90度に曲げて右手は拳を握る(親指は立てない)。

POINT

左腕左手は下ろしたまま  
足は肩幅に開き膝は伸ばして立つ  
中腰になったり前屈みになったりしない

アウト・ストライク・スイング



## セーフ

- (1) 両腕両手を前方で伸ばしたまま肩の高さまで上げる。
- (2) 両腕両手を地面と平行に180度開く。

POINT

足は肩幅に開き膝は伸ばして立つ  
中腰になったり前屈みになったりしない

セーフ



## ボール

- (1) 投球を見る構えのままの姿勢。  
声だけでジェスチャーはしない。

ボール



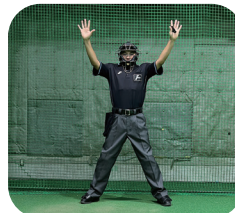
## タイム・ファウル

- (1) 両腕を大きく開いて上げる。

POINT

足は肩幅に開き膝は伸ばして立つ  
中腰になったり前屈みになったりしない

タイム・ファウル



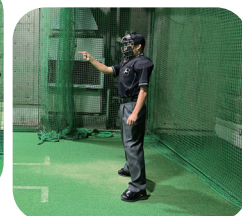
## プレイ

- (1) ピッチャーのベルト付近に向かって、ダーツを投げるように人差し指を指す。

POINT

プレイは球審だけがコールをすることが  
できるジェスチャー  
塁審は球審がプレイをかける瞬間を必ず  
確認すること

プレイ



# 各塁でよく起こるプレイ・ルール

## 本塁

①打者が打つために構えている時、バッターボックスから打者の足がはみ出ている  
→打者に打席の中に入るように伝える

②打者が3ストライク目(三振の時)で振り逃げが出来ないケースとは?  
→0アウトまたは1アウトのとき、走者一塁、一二塁、一三塁または満塁のときである

**POINT** この場合、捕球の有無は関係なく打者はアウトになる

③0アウト走者一塁、打者は送りバントをした。打球を捕ろうとする捕手とバントをして一塁に向かう打者走者がぶつかり、捕手が倒れて守備をすることができなかった。審判員の処置は?  
→守備妨害として打者走者をアウト、一塁ランナーを一塁に戻して再開するよう指示する

**POINT** 打球に対して、守備をしている野手の妨げになれば“守備妨害”となり、妨害をした選手はアウトになる(基本は守備者優先)



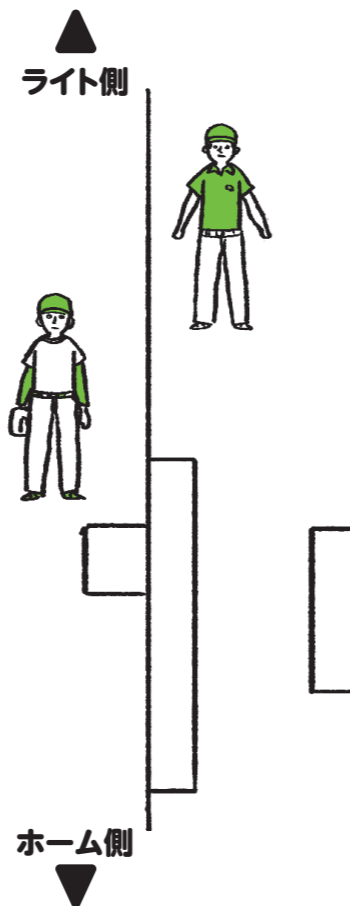
## 一塁

①一塁塁審の基本立ち位置は?  
→一塁手の少し後ろ(約3~4m)で構える。ちなみに、三塁塁審も同じ間隔の立ち位置である

②0アウト走者なし、ショートゴロを打ったが、ショートからの送球が悪送球となりボールが球場の外に出た  
→タイムをかけて打者走者を二塁に進める

**POINT** 走者がいた場合は、投手が投球する時にいた塁から走者を2つ進める

③0アウト走者なし、外野へヒットを打ったが、一塁を回った走者とボールを持たない一塁手がぶつかった  
→すぐにタイムにはせず、走塁妨害があったことを宣告して様子を見る。その後もし走者が二塁に進もうとしてアウトになった時、妨げられていなければ二塁に行けたと審判員が判断すれば二塁に進める。妨げられていなくても二塁には行けてないと審判員が判断すればアウトのままとする



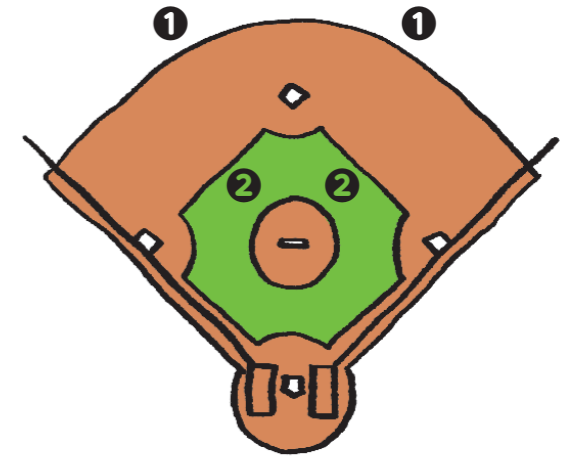
## 二塁

①二塁塁審の基本立ち位置は?  
→走者がいない時はセカンドとショートの間後ろ(内野の外①)  
走者がいる時はセカンドとショートの間で走路の前(内野の中②)

②一塁走者が二塁走者を追い越してしまった  
→一塁走者が二塁走者を追い越した瞬間に一塁走者にアウトを宣告する

**POINT** 走者の追い越しは、後ろにいる走者がアウトになる

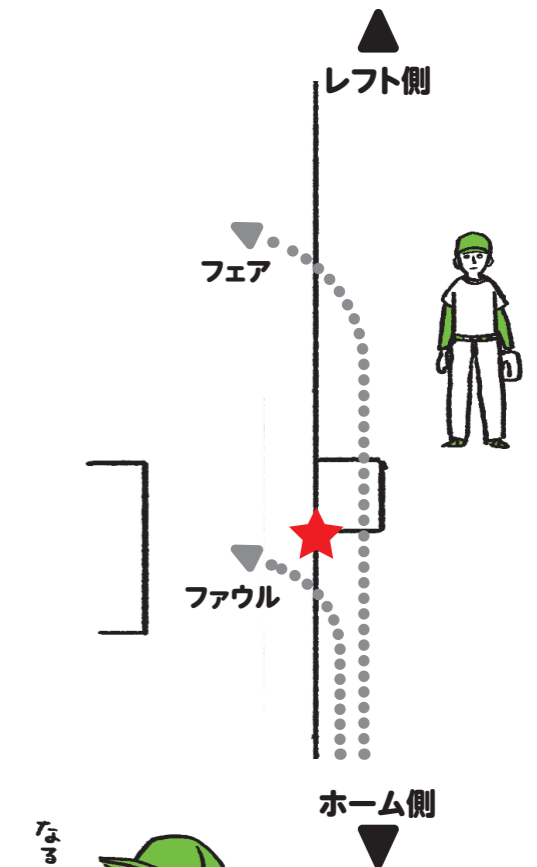
③打球が二塁にいる審判員に当たった場合の処置は?  
→内野の中に位置している審判員に打球が当たった場合は、プレイを止めて打者を一塁に進める  
内野の外に位置している審判員に打球が当たった場合は、そのままプレイを続けさせる



## 三塁

①ベースの上をゴロで抜ける打球に対してのフェアファウルが決まる場所は?  
→ベースの本塁とファウルライン側の角が基準となる。その基準よりも内側を通過すればフェアである

②二塁走者と三塁走者が三塁ベース上についていて2人の走者は野手にタッグされた  
→後ろにいる走者がアウトになるため、ベースについてもタッグされれば二塁走者はアウト。ベースについている三塁走者はセーフ。その際、タッグされた順番は関係ない



## 「審判員豆知識」

・球審が動く場所は本塁の後ろだけではなく、一塁や三塁まで行くことがある



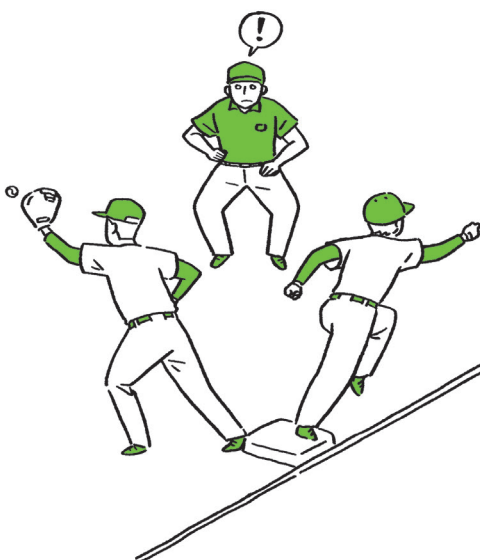
## 投球判定

- ① 立ち位置は**打者と捕手の間でホームプレートが見える位置**に立つ  
→投球がキャッチャーミットに入るまでを見るため
- ② 身体や顔を動かさない。投球を目だけで追うこと  
→身体や顔を動かすとブレて正確な判定から遠ざかりやすい
- ③ 投球は目で見て判断、頭の中でも判断してゆっくり判定を下す  
→より正確な判定をするため



## フォースプレイ

- ① アウトかセーフか判断をする時は**必ず止まって見る**  
→身体や顔を動かすとブレて正確な判定から遠ざかりやすい
- ② 見る位置は、走者のベースを踏む足、野手がベースを踏む足、野手がボールを捕る瞬間の**3つが見える角度、位置**に入る
- ③ 判断するときは、走者のベースを踏む瞬間、野手がベースを踏んでいるかどうか、野手の捕る瞬間の**3つを見る**
- ④ ボールを**確実に捕っているか**を確認する



## タッグプレイ

- ① アウトかセーフか判断をする時は**必ず止まって見る**こと  
→身体や顔を動かすとブレて正確な判定から遠ざかりやすい
- ② 見る位置は、走者のベースを踏む足、野手が走者をタッグする瞬間の**2つが見える角度、位置**に入る
- ③ ボールを**確実に捕っているか**を確認する



## 審判員として ～スポーツマンシップ～

選手も審判員もそれぞれ一つのチームです。そのため審判員は第三のチーム(3rd team)と言われています。野球に限らずルールを守ることはとても大切なことですが、それと同等以上に大切なことがあります。

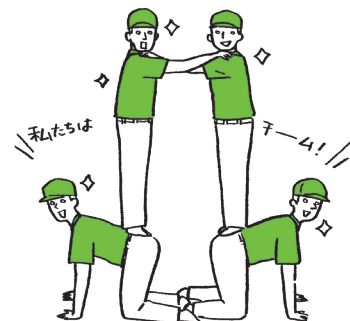
それは仲間を大事にし、相手・審判員を尊敬・尊重することです。

仲間がいなければキャッチボールもチーム練習もできません。

相手がいなければ、試合ができません。

審判員がいなければ、公平な試合になりません。

ルールを守らなければ、みんなで楽しく試合ができません。



審判員も選手も全ての人を尊敬・尊重して競技を行うことでみんなが楽しく野球に取り組めるはずです。

これからも野球人として野球に関わった人として、子どもから大人までの野球界全てがより良い場所になるようみんなで盛り上げていきましょう。

## 審判員の基礎のキソまとめ

- ・常にボールから目を離さないこと
- ・プレイを見る際、どのポジションやどの位置においても“必ず止まって見ること”
- ➡ボールに対して背を向けないこと(基本的にボールがある場所でプレイは起こる)
- ・何が起きても焦らずに冷静に対応すること
- ・堂々と思い切ってジャッジ(判定)をすること

